

氏 名：遠藤 亜貴子
学 位 の 種 類：博士（看護学）
学 位 記 番 号：甲第 134 号
学位授与年月日：2015 年 9 月 15 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 松谷美和子（聖路加国際大学教授）
副査 堀内 成子（聖路加国際大学教授）
副査 片岡弥恵子（聖路加国際大学准教授）
副査 齋藤 昭彦（新潟大学）

論 文 題 目：Effectiveness of an Educational Intervention for Midwives about Early-Childhood Immunization
助産師への乳児期予防接種に関する教育介入の効果

博士論文審査結果

本研究は、助産師による妊婦・褥婦に予防接種支援提供のための教育プログラムの開発、及びその効果の非ランダム化比較試験による検証を目的として行われた。

介入群 2 施設、対照群 3 施設の助産師に対して、介入群には冊子を用いた 75 分の講義およびチラシの配布とグループディスカッションを実施し、対照群には冊子を配布し、チラシの配布を依頼した。また、両群ともに教育者への e-mail による質問を受け付けることを伝えた。その結果、助産師の予防接種支援実施頻度の増加は両群ともに認められず、群間差も認められなかった。母親への調査では、2 種の任意接種ワクチンの接種意図が介入群で有意に高かった。生後 2 ヶ月時点の初回ワクチン接種率では、介入群の B 型肝炎ワクチンの接種率が有意に高かった。接種開始時期は、いずれのワクチンについても介入群で有意に早く、同時接種実施率も有意に高かった。B 型肝炎ワクチン接種率、早期適時接種率および同時接種率への介入効果が認められたことは新たな知見として特筆すべきである。

審査では、行程での管理・運営力が問われる複数施設での介入研究を実施し、英語論文としてまとめ挙げたことが高く評価された。論文については次の修正が要請または提案された。

1. 介入群と対照群の施設の特徴について対比して追記する。
2. 介入群と対照群それぞれへの実施内容とその結果を分かりやすく、丁寧に記述する。
3. B 型肝炎ワクチンよりもロタウイルスワクチンのほうに接種意図が高いのは意外である。B 型肝炎ワクチンの接種意図が低いのはなぜか、考察し記述する。
4. 初回接種ワクチンの適時接種率と同時接種率が介入群で有意に高かった検証結果を詳述する。
5. 米国の予防接種ルティーンを最新版に変更する。
6. 統計学的分析結果について標記の仕方、検定法の選択などマイナー修正を行う。
7. 図 3 については、交互作用について本文での追記を行う。
8. 図 4、表 2、9、13、14 の修正を行う。

上記指摘事項に関して修正・加筆されたことを確認した。以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条第 1 項および大学院学則第 17 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。